

令和3年5月27日(木)

令和3年度 特別支援学校と高等学校との共同学習事業  
第1回運営協議会  
昨年度の取組報告について

県立神戸特別支援学校・県立神戸甲北高等学校

# 活動の実際(単元名)

## 神戸甲北高等学校・書道Ⅲ

- ・打ち合わせの流れ

神戸特別支援学校 教頭・交流部長、神戸甲北高等学校 教頭・交流コーディネーターの4名で6月に交流及び共同学習について話し合いの場を持ち、「書道Ⅲ」の授業で交流及び共同学習をリモートにて行うことを決める。

神戸特別支援学校高等部の1年生・「基礎学習」2班(生徒数8名)が、その授業を受けることを決める。

両校のそれぞれの授業担当者間でメールで連絡を取り合い、日時、授業内容などを決め、その後、必要物品を準備する。

# 事前学習

神戸特別支援学校では、神戸甲北高校の授業担当者から提供されたパワーポイントの資料を使い、交流当日、「どこで、何をやる」のかなどを確認。今年度の新出漢字より自分の好きな意味や形の文字を選び、事前にのびのびと毛筆練習を行った。

神戸甲北高校では、当日書く漢字をそれぞれ各生徒で決めておいた。各生徒には、いろいろな障害や個性があることと、障害は環境がつくるものであるという考え方についても伝えた。

# 当日の様子

全員10分間で好きな文字をわんぽ(白抜き材)を用いて半紙に書く。半紙に何が書かれているかは、裏から着色するまでわからない。着色前の作品を交換し、それぞれの学校で色を塗る。

相手校の生徒が何を書いたかを見て楽しむと同時に、どんな人がそれを書いたかをリモートの画面を通して知ることができる。



# 事後学習

## 神戸特別支援学校

- 自分の書いた作品と自分が着色した作品の発表を後日、自校で行った。

## 神戸甲北高校

- リモート授業を終えた後、障害は環境によって作られること、できないことは誰にでもあることをもう一度考えた。人前で話すのが苦手な生徒もいたので、口頭で感想を何人かが述べた後は、無記名で感想を紙に記入した。

# 成果

## 神戸特別支援学校

- 新たにリモート授業で交流及び共同学習の取組を行い、従来とは異なる所でお互いの様子を知る良い機会となった。
- 授業の進行を事前に提供をうけ、打合せの上でホスト校である神戸甲北高校が行うことで、スムーズに進めることができた。

## 神戸甲北高校

- いつもと変わらない授業の雰囲気で行えたように思う。
- 作品説明や感想を話す時、特別支援生が自分の言葉で自分の思いを長く話せていたこともあり、「すごい！」という声とともに、気づきや相手を認めた感想が多かった。
- ほとんどの生徒が楽しかったと相互理解できる良い機会だととらえていた。
- リモート授業と言う環境のため、サポートする側という意識がなかったのも良かった。